

ター申請書類も分かりづらくとても難しい。でも、先輩の作業所でアドバイスを受け、教えていただくことで割とスムーズに行ったのですが、会計面については税理士に入ってもらっているとのことでした。

そして最後に、田頭所長から次のようなお言葉をいただきました。

『平成十年十二月、初めて

ねぎぼうず作業所を開所して、今日まで先輩の作業所の皆さんに支えられ、励まされ、そしていっぱい助けられてきたので、これからは法人化に向けての書類、または地域活動支援センターの申請書類などでお困りの作業所へ、ほんの少しのアドバイス位のお手伝いはできるかな、と思っています。

大阪市のこの地域活動支援センターの事業はよ

くできていると思います。

これから作業所が生きていく道の一つの選択肢かなと思うので、まずは地域活動支援センターへの移行を考えてみてほしいのではと思つています。そしてその中で、気付いた難しい面などを具体的に出し合い、みんなで声にしてよりよい方向につなげていくことができるよう、育成会に期待しています。』

田頭所長はじめ、支援員の北川さん、お忙しい中ありがとうございました。

### エル・チャレンジとは？

(大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業共同組合)

### そのなりたちとPT案に揺れる現状

エル・チャレンジとは、一九九九年、当時雇用対策が進んでいなかった知的障害者に着目し「職業的重度」といわれる障害者の就業支援にスポットを当てようとの理念に基づき設立されました。

当初、エル・チャレンジは、まず大阪府立大型児童館ビッグバンでの清掃業務を受託しました。大阪府としても知的障害者の雇用が満足すべき実績に達していないこともあり、その雇用を促進することが、重要な政策課題とのいわゆる「行政の福祉化」の認識のもとで、その清掃委託契約の目的には「知的障害者の雇用促進」を掲げられています。

エル・チャレンジはビッグ

バンでの清掃業務の受託後、大阪府が有する施設の清掃業務について、知的障害者の雇用の場としてではなく、民間企業に就職するにわたる訓練の場として活用することを提案しています。そうしたなかでビッグバンでのエル・チャレンジの実践が、

低コストで高い雇用開発成果が得られるとの評価を受け、知的障害者の就業支援モデルとしてのエル・チャレンジの訓練現場が飛躍的に拡大していききました。これまでに全体で二五六人の訓練生が、民間企業に就職しています。現在ではエル・チャレンジは当法人(大阪市知的障害者

育成会)も含めた五つの組合員による事業協同組合として構成されています。

大阪市知的障害者育成会では、区役所や府下の公立学校などでの清掃現場を受けており、それを作業所に再委託して現場に派遣されています。訓練現場では作業所からの訓練生及びジョブコーチ(支援者)が、依頼を受けた清掃業務などについて、日々に課題を把握したうえでどのよう解決していくかをたえず試行錯誤しながら取り組んでいます。業務にあたってはエル・チャレンジのユニホームを着用して、各自自覚をもって活動しており、周囲からも一定の評価を得ています。

しかしながら連日新聞・ニュース等で報道されているように、橋下大阪府知事のもと、大阪府改革プロ